

# とよたかずひこさんと“おはなし”を楽しもう!

「でんしゃにのって」や「ももんちゃん」シリーズでおなじみのとよたかずひこさんが、伊豆の国市にやってきました。本人による読み聞かせや絵本作成のエピソードなど、たっぷりと“おはなし”をお楽しみください。

とき／10月15日(日) 13:00～14:30  
 ところ／中央図書館 2階視聴覚室  
 対象／幼児～小学生とその親、読み聞かせ活動者  
 ※事前申し込み不要。直接会場へお越しください。  
 ※駐車場に限りがあります。なるべく公共交通機関をご利用ください。  
 ☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566



## 図書館だより

### 今月のおすすめ ～生物写真集～

生き物の美しい姿や癒される表情、野生の厳しさなどを切り取った写真から、自然の奥深さを感じます。



『群れ』蝦名元 (監修)  
 「群れ」とは弱者の知恵。「群れ」は、生命の力強い集まり。だから美しい。フラミンゴ、アフリカゾウ、インパラ、トナカイほか、世界のさまざまな野生動物の群れの姿を集めた写真集。 【中央】



『恋文ーぼくときつねの物語』竹田津実 (著)  
 住民たちにとっては嫌われもののキタキツネ。知床半島の家畜診療所で診療の傍ら、半世紀の間キタキツネを追いつづけた著者の集大成となる写真文集。 【中央】

### ■ 葦山図書館の紙芝居

1,000点を超える紙芝居のうち、一部を図書館2階の児童図書室でご利用いただけます。季節にあった紙芝居など、今後定期的に入れ替えを行う予定です。児童図書室にない紙芝居をご利用になりたい時は、カウンターに声をおかけください。



図書館カレンダー  
 モバイル版QRコード

■ 10月のおはなし会  
 ※いずれも土曜日  
 中央図書館 14日 11:00～  
 葦山図書館 14日、28日 14:00～  
 あやめ会館 21日 9:00～

- 『どうぶつのあくび』中川遊野(著) 【葦山】
- 『お母さんといっしょ』福田幸広(写真と文) 【葦山】
- 『夢みる動物一田中光常写真集』田中光常(著) 【葦山】
- 『森の探偵ー無人カメラがとらえた日本の自然』宮崎学(著) 【中央】
- 『セレンゲティ大接近』アヌップ・シャー (著) 【中央】
- 『世界の美しい透明な生き物』澤井聖一(編) 【中央】

10月の休館日  
 中央図書館 2日(月)、9日(月・祝)、16日(月)、23日(月)、27日(金) 30日(月)  
 葦山図書館 4日(水)、9日(月・祝)、11日(水)、18日(水)、25日(水)、27日(金)  
 開館時間(共通) 9:00～17:30 ☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566  
 図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/>

# 文化財通信

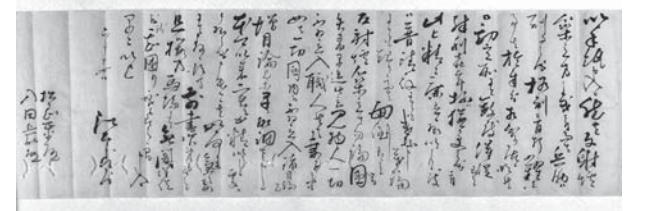
その148

## 葦山反射炉の築造担当者「八田兵助」(その4)

☎ 市役所文化財課  
 ☎ 055-948-1428

葦山での反射炉築造は、安政元年(1854)6月7日、基礎の松丸太杭を地面に打ち込む工事から始まり、築造の担当者である八田兵助は、日々現場で作業の進捗を監督していたことでしょう。本郷(現下田市)からの築造場所移動によって、工程にかなりの遅れが生じていたからです。

そんな折、江戸にあった江川坦庵公から、反射炉御懸の松岡正平と八田兵助に宛てた直筆の書状が届きます。その内容は、反射炉築造を急ぐよう促すものでした。坦庵公は兵助に「反射炉築造について、兵助が格別の骨折りをもって、最大限急がせていることは、自分はよく分かっている。しかし、幕府勘定所から重ねての催促もあつたことから、築造を急ぐのはもちろん、見物人を一切立ち入らせないようにすること。加えて、今後の工事の計画書となるべく早く提出するように」と書き送っています。



松岡正平・八田兵助宛江川坦庵書状  
 (公益財団法人江川文庫所蔵)

それだけでなく、手紙には「下田での築造開始以来、ずっと頑張ってきたところへ、さらにこのようなことを命じるのは、いかにも気の毒ではあるが、こういう次第だから申し遣わすものである」と、兵助を案じ、ねぎらう言葉も書かれていました。現場で奮闘する兵助にとって、この手紙は何よりも力になったことでしょう。彼が、葦山反射炉築造に向けて、より一層邁進したであろうことは想像に難くありません。

しかし、工事はなかなか順調には進みませんでした。なにしろ、造ったことのないものを造ろうというのです。兵助がいかにか佐賀で実際の反射炉を見てきた(注1)といっても、それを配下の職人たちに伝え、正確に再現させるのは、恐ろしく困難だったはず。その上、同じ安政元年の11月4日、安政の大地震が発生、各地で甚大な被害をもたらしました。既に完成していた反射炉の南炉にも、ひびが入るなどの

損傷を受けます。さらに翌安政2年(1855)1月16日には、プロジェクトの指揮官である坦庵公が病により江戸屋敷で亡くなってしまいます。

江川家の家督と葦山代官職は息子の英敏が継ぐこととなりましたが、年齢も若く、反射炉築造事業を進めていくには、いささか経験不足だったと思われまふ。その英敏を、兵助ら坦庵公時代からの部下が支えながら、完成を目指すこととなったのです。



「反射炉御取建中日記」  
 安政元年11月4日条  
 (公益財団法人江川文庫所蔵)

(注1) 兵助は、嘉永6年(1853)6～7月にかけて佐賀藩に出張し、既に稼働していた築地反射炉を視察している。